

# TSUDOI

## スタンダードプラン 週次レポート

TSUDOIはブロックチェーンと仮想通貨に特化した情報配信サービスです。

### 本レポートコンテンツ

#### ◆TOP銘柄分析ガイド

今週の急上昇銘柄分析、上昇理由と将来予測

#### ◆狙い目：中堅銘柄発掘ガイド

世界トレンド銘柄の分析

#### ◆大穴：新規銘柄発掘ガイド

CMC新規リスト銘柄分析

### ◆調査銘柄 早見表

|     |   |   |   |
|-----|---|---|---|
| TOP |  Stellar        |  Hedera            |  Sei                   |
| 中堅  |  Pudgy Penguins |  Virtuals Protocol |  Ethereum Name Service |
| 新規  |  Pump.fun       |   |   |

このレポートはTSUDOIの有料サービス、スタンダードプランの加入者専用の情報です。レポートの内容は個人的な使用のみを対象としており、商業的な利用は事前の許可が必要です。

レポートの読み方については、一覧に含まれる [「必見！成功へ導く3つの仮想通貨投資術」](#) をご覧ください。



TSUDOIリサーチチーム内では、関連ニュースから中長期的に注目を集め、価格高騰が期待できると予想した銘柄にGoodマークを付けています。こちらのマークを付与した銘柄のみ、AIによる相場分析の情報も記載しております。



# 週次トークン価格高騰 TOP銘柄

## トップ銘柄 分析ガイド 7/18

本分析ガイドは、Coinmarketcap（CMC）サイトにて、7日間を通してトークン価格が最も高騰もしくは下落したTOP銘柄を調査し情報を提供するものですが、今週は、中堅銘柄同様、検索トレンドを中心に話題となっている銘柄を週次でまとめて分析となっています。この分析から、市場で何が起こったのか、どの銘柄が注目されているのかを把握することができます。

| CMC Rank | プロジェクト   | カテゴリー   | 時価総額               | トークン価格 | 市場規模<br>ベンチマーク<br>比較 | 上昇率<br>7days  |
|----------|--|---------|--------------------|--------|----------------------|---------------|
| #12      |  <b>Stellar</b> | Payment | ¥2,192,283,329,332 | ¥70.50 | 13.06倍<br>(XRP比)     | <b>63.21%</b> |
| #15      |  <b>Hedera</b>  | Layer1  | ¥1,521,895,795,129 | ¥35.89 | 9.20倍<br>(SOL比)      | <b>37.03%</b> |
| #49      |  <b>Sei</b>     | Layer1  | ¥305,963,957,068   | ¥52.91 | 45.78倍<br>(SOL比)     | <b>34.34%</b> |

## TOP銘柄チャート

上記画像は、Coinmarketcap（CMC）で記載されている7日間の価格推移を表示したチャートとなります。基軸通貨であるBTC価格は、直近7日間で、**+6.95%**となっております。





参照元：Coinmarketcap

## 銘柄の価格高騰要因(考察)



とは

TSUDOIRリサーチチーム内では、関連ニュースから中長期的に注目を集め、価格高騰が期待できると予想した銘柄にGoodマークを付けています。

### Stellar : XLM (GOOD)

本銘柄は、直近3カ月で2度目の選出となります。

注目ポイント：元ペイパル幹部加入で実需拡大

7/16 ステラ開発財団（Stellar Development Foundation）は、元ペイパルブロックチェーン責任者ホセ・フェルナンデス・ダ・ポンテ氏を社長兼最高成長責任者（Chief Growth Officer）に、元ブロック社マーケ責任者ジェイソン・カーシュ氏を最高マーケティング責任者（Chief Marketing Officer）に採用。同ネットワーク上のRWA資産は、4.5億ドルに到達(全ネットワーク中5位)。PYUSD統合について競合L1とのシェア争いは続くが、元ペイパル社長就任というニュースは好材料。決済実用化と資産トークン化の拡大で企業・政府採用が進めば、手数料収益とXLM需要の中長期的底上げが期待できる。

### AIによる相場分析：XLM

XLMの現在の価格は0.51ドル（約76円）で上昇基調が続き、売買も活発。0.50ドル（約74円）を保てば勢いは途切れにくく、0.60ドル（約89円）を目指す展開が想定されます。ただし熱気が強いいため短期の利確売りには注意。0.45ドル（約67円）を割ると一服する可能性も。

## Hedera : HBAR (GOOD)

本銘柄は、直近3カ月で2度目の選出となります。

注目ポイント：NVIDIA・アクセンチュアとの共同開発を発表

7/10 RAISE サミット2025でHederaは、NVIDIA・アクセンチュア・SCAN UKとAI向け「Verifiable Compute」を共同開発すると発表。7/11 豪準備銀行の銀行間でのCBDC実験「Project Acacia」に台帳基盤として選定され、中央銀行マネー即時決済をテスト。さらに英ロイズ銀行とアバディーンは国債等100億ドル相当をトークン化しHedera上で決済する実証を完了。さらにKraken新規上場で個人流動性も拡大。2030年AI GPU市場は4,000億ドルと試算され、競合とのシェア争いは想定されるが、その1%が上記を活用することでHederaを扱えば巨額の手数料がネットワークを下支えることとなるため、長期的に実需拡大シナリオが強まる。

### AIによる相場分析：HBAR

HBARは勢いよく上昇中で、0.30ドル（約48円）を超えれば0.32～0.35ドル（約51～56円）へ伸びやすく、さらに0.42ドル（約67円）も視野に入ります。一方、0.28ドル（約45円）や0.25ドル（約40円）を割ると0.20ドル（約32円）まで下落する恐れがあり、押し目買いは0.25ドル付近、追随買いは0.30ドル突破後が無難です。

## Sei : SEI

本銘柄は、直近3カ月で1度目の選出となります。

注目ポイント：ネイティブUSDC導入でDEX流動性急増

7/10 CircleがSei上で米ドル連動ステーブルコインUSDCを直接発行し、公式ブリッジ機能CCTP v2も稼働。ブリッジ不要で資金を出し入れできるようになり、分散型取引所の取引量が急増、TVLは6.8億ドルへ。年内の「Giga Upgrade」で処理速度が25万件/秒に高まれば、手数料が安く速いチェーンとして定着し、中長期的に利用者と価値の拡大が期待される。

# CMCサイト内 検索トレンド 狙い目：中堅銘柄

## 狙い目：中堅銘柄 発掘ガイド 7/18

このガイドでは、将来的に市場をリードする可能性を秘めた中堅銘柄を見つけるために、下記分析手法を採用しています。Coinmarketcap (CMC) における過去7日間の検索トレンドや訪問者数を分析し、注目を集めている中堅銘柄に関する情報を提供することです。

### 検索トレンド3銘柄

| CMC Rank | プロジェクト   | カテゴリー                    | 時価総額             | トークン価格    | 市場規模<br>ベンチマーク<br>比較 | 上昇率<br>7days |
|----------|--|--------------------------|------------------|-----------|----------------------|--------------|
| #62      |  <b>Pudgy Penguins</b>        | Collectibles & NFTs      | ¥280,420,238,766 | ¥4.46     | —                    | 64.58%       |
| #218     |  <b>Virtuals Protocol</b>     | AI Agent                 | ¥170,579,602,356 | ¥260.37   | 1.61倍<br>(FET比)      | 8.46%        |
| #325     |  <b>Ethereum Name Service</b> | Decentralized Identifier | ¥147,616,647,016 | ¥4,039.24 | 1.97倍<br>(WLD比)      | 33.03%       |

### 狙い目：中堅銘柄チャート

以下の画像は、CMCでの7日間の価格推移のチャートとなります。基軸通貨であるBTC価格は、直近7日間で、+6.95%となっております。





参照元：Coinmarketcap

## 検索トレンド中堅銘柄 注目要因(考察)



TSUDOIリサーチチーム内では、関連ニュースから中長期的に注目を集め、  
とは 価格高騰が期待できると予想した銘柄にGoodマークを付けています。

### Pudgy Penguins : PENGU

本銘柄は、直近3カ月で3度目の選出となります。

注目ポイント：Coinbase支持&中国玩具進出

7/14 大手取引所コインベースが公式XアイコンをペンギンNFTに変更し「new pfp, who dis」と投稿。PENGUは最大13%急騰、NFTフロアも急伸し時価総額は一時18億ドルに達した。続く7/16、玩具大手Suplay Inc.と提携し中国のオンライン玩具市場へ本格進出。主流プラットフォームの支持と世界最大消費市場への展開でブランド認知が跳ね上がり、8/29リリース予定のモバイルゲーム「Pudgy Party」と相乗してIP収益源が拡大する見込み。もっとも評価維持にはゲームの実行力とチーム特有のボラティリティ管理が鍵となる。本銘柄は単なるNFTの域を超えた総合エンターテインメントブランドとしての地位を確立し始めている。

## Virtuals Protocol : VIRTUAL

本銘柄は、直近3カ月で3度目の選出となります。

注目ポイント：ACP公開でAI取引実需＋分散ガバナンス両輪強化

7月 AIエージェント間で自律取引できるAgent Commerce Protocol (ACP) パブリックベータを始動。MamoやVaderAIなど実用エージェントが稼働し、Genesis ポイントの報酬も「実取引重視」に改定。併せてガバナンスポータルが開き、veVIRTUAL保有者が提案・投票を主導。さらにボット対策などに使われるSniper Defense基金（総供給1%）提案でセキュリティ強化へ。技術・ガバナンス・安全性の三本柱が整い、AIエージェント市場での優位確立とVIRTUAL需要の長期底上げが期待される。ただし、AIエージェント分野では年始の乱高下により上値が重たい可能性あり。

## Ethereum Name Service : ENS

本銘柄は、直近3カ月で1度目の選出となります。

注目ポイント：Coinbase上場＆自社ドメイン移行で利用爆増

7/10 ENSはCoinbaseドイツに上場し流動性が拡大。ENSの導入先であるCoinbaseにて7/16発表された「Base Account（エブリシングアプリ）」も、既存のENSベース身元確認システムを流用する可能性が高いと見られ、取引しやすいトークンと実利用ドメインの相乗効果が長期需要を押し上げる。一方で急騰後の利確売りには注意が必要。

## 大穴：新規銘柄 発掘ガイド 7/18

このガイドでは、将来有望な「大穴銘柄」を発掘するため、CMC上で時価総額ランキング250位から500位に位置する銘柄を調査し、成長性の高い銘柄を選定する手法と、Tier1 VCが投資する銘柄の中から直近7日間で時価総額が急上昇したものを分析する手法を採用しています。大穴銘柄は、TOPや中堅銘柄の分析とは性質が異なり、時価総額が低いことから成長の幅が期待できる反面、リスクも伴うため、リスクリターンのバランスを慎重に判断する必要があります。

| CMC Rank | プロジェクト  | カテゴリー     | 時価総額             | トークン価格 | 市場規模<br>ベンチマーク<br>比較 | 上昇率<br>7days   |
|----------|---|-----------|------------------|--------|----------------------|----------------|
| #53      |  <b>Pump.fun</b> | Launchpad | ¥282,880,088,362 | ¥0.79  | —                    | <b>-14.32%</b> |



## Pump.fun : PUMP

本銘柄は、直近3カ月で1度目の選出となります。

### 注目ポイント：史上最速ICO+3億ドルバイバックで価格下支え

本銘柄は、2024年1月よりリリースされたSolana上でミームコインの発行・売買をワンストップで行えるプラットフォームとして知られており、トークン発行イベントの一環として、**7/12に12分で6億ドルを調達したICOが話題**となり、7/14にはBitget、CoinEx、KuCoinなど主要取引所上場で流動性が拡大する一方、ユーザーからの即時アンロック売りが入り、最高値から57%急落。**7/16にはプラットフォーム収益3.06億ドル相当を用いた大規模バイバックを実施**し価格が20%反発。豊富な資金と継続買い戻しがトークン価値を支える半面、ユーティリティ不足と高ボラティリティが課題。新機能投入と競合対策が実需定着のカギとなる。

強気相場ではミーム市場も盛り上がりやすい。Pump.funのようなインフラ系プロトコルは、アルトシーズンの資金流入で収益急増→トークン買い戻し強化の可能性も。市況の流れには注目。

## 引用元：

本レポートにおけるデータおよび分析は、以下の情報源を基にしています。

- CoinMarketCap : <https://coinmarketcap.com/>
- CoinCarp : <https://www.coincarp.com/>
- Messari : <https://messari.io/>

## 注意事項

本レポートは、投資助言を提供するものではありません。提供される情報は、一般的な解説に限定されており、個別の投資判断に直接適用するものではありません。投資に関する最終決定とその結果について、当方は一切の責任を負いません。レポートの内容は個人的な使用のみを対象としており、商業的な利用は事前の許可が必要です。商業利用に関するお問い合わせは下記よりご連絡ください。

発行元：TSUDO I

メールアドレス：info@sigmainc.co.jp

ウェブサイト： <https://tsudoi-platform.co.jp/>